佳ちゃんの部屋vo.1
〜2年目の会へようこそ〜

猛で仕事をしている人のこと、どこまで知っていますか？仕事をバリバリこなしている女の人も、クールにキーボードをたたいているあの人も、実はプライベートでは全く違う顔をしているかも……。これまでの事、現在の生活、趣味・特技やこれからの夢を知ることができたら、その人の見え方がぐっと変わるはず。

そこで今回、KNOTE社内メンバーと、「佳ちゃんこと」と慕う谷川社長との対談を通して、皆さんの魅力を再発見していく社内広報プロジェクト「佳ちゃんの部屋」が始動しました。と言いつつ、記念すべき初回はまさかのグループ対談！佳ちゃんと入社2年目のメンバーによる楽しい夜の会を覗き見してみましょう。入社して1年が経過した今、みんなは何を経験し、何を思っているのでしょうか？

——明確に、名前・あだな・年齢・出身地・出身校などご紹介お願いします！

渡辺くん：緊張するな……。2年目の渡辺美和です。あだ名は「ナベ」と皆さんから呼ばれています。そう呼ばれ始めたのは入社してからですね。それ以前は下の名前で呼ばれることがほとんどだったので、地元は岐阜県で、幼稚園から高校までは地元の公立に通っておりました。大学は京都にある立命館出身です。

城戸緋古ん：城戸緋古です。私も大学生までずっと「しゅ」って呼ばれていて、会社に入って初めて「ヒド」って呼ばれるようになりました。社会人になって上の名前で呼ばれることが多くなったので新しいなと思いつつ、それが社会人かなとも思ってます。大阪出身で、大学は兵庫県にある武庫川女子大学です。本日はよろしくお願いいたします。

荒木さん：荒木理子と言います。あだ名は「リコピン」か「ラッキー」って言われたいという思いがあります。出身は大阪で、出身校は大阪体育大学です。ダンスをしていたので、体を動かすことは好きですね。最近、ミステリーと自己啓発系の本を読み始めました。

藤原くん：藤原直樹といいます。社内では「フジ」とか、「藤原くん」と呼ばれることが多いです。下の名前が「直樹」で他の人と被ることが多かったので、苗字で呼ばれることの方が多かったかなと思います。出身は埼玉県川越市。高校までは公立、それから横浜さんと同じ日本電子専門学校のウェブデザイン科というところに通いました。

——横田は（専門学校で）伝説になってるんだって？。

藤原くん：そうですね。ちょっと大きすぎる背中なんですけど、頑張って追いかけます。

——生活面とかメンタル面で、会社に入って変わったことってある？

荒木さん：生活面だと朝ごはんを食べなくなりました。良くないとは思っているんですけど……。

渡辺くん：一人暮らしの面で大きく変わったことはないんですけど、規則的な生活に変わったっていうのはありますね。あとは休日に家から出ることが多くなりました。

——休日は何するの？

渡辺くん：基本、買い物に行くことが多いです。服を買ったり。

——趣味とか好きなこと、マイブームとかある？

渡辺くん：僕はサッカー観戦が好きですね。今はちょうどヨーロッパでユーロっていう大会が開催されているので、それを観たり、パスタをそろそろですけど、時間が決まっているスポーツが個人的には好きです。
でも格闘技系は観られなくて、ボクシングとかもそろそろですけど、観ているだけで痛く感じてダメなんです。総合格闘技とかプロレスも観られないんですよね。

——最近泣いたことは？

城戸緋古ん：「世界一キライなあなたに」っていう洋画を観て泣きました。大号泣しましたね。恋愛系なんですけど、なんか最終的に"今の当たり前の状況に感謝しないと"みたいな感情になる作品です。

——仕事で泣いたことはある？

城戸緋古ん：あります。悔し泣きですね。何かを言われてその場で泣くことはないんですけど、後からじわじわくるんですよね。泣いているときは見せたくないんですけど、「見せたくない」って思うほど目がうるうるしてきて（笑）そういう時はトイレに行って冷ますします

——ナベは泣いたりしないの？

渡辺くん：結構あります。というか一番泣いてるかも。結構恥み隠さずに泣いちゃう……。

——え、なんで！？どういうタイミングで？

渡辺くん：いや、なんか仕事の時とかはあまり泣かないんですけど……。この前同期会に行った時は、近況報告で最近あったことを話しながら、みんなの前でうわーって泣いちゃうみたいな。もう、飲み会ある度に泣いてる感じです。

——その時って周りはどんな感じになるの？
みんな：「また泣きった」って（笑）

——藤原くんはそういうのないよね？

藤原くん：仕事ではそんなに泣くことはないですね。思い悩むシーンが今の仕事上ではあまりないので。

——未来の話を聞きたいな。憧れ乗ってあるク？社内でも社外でもいいけど、あおいう風になりたい、みたいな感じって？

荒木さん：私はありますね。ダンス部のコーチだった方がいるんですが、私はその人のことめっちゃ慕いやったんです。なんか雑不用に指導されたりして。でも今は、こうやって広告とかプロモーションの仕事に携わる中で、そのコーチの凄さが分かりました。自分のダンスチームを作ってブランディングして、色んなんから「踊ってください」「コラボしてください」って言われたり、ワンマンライブを成功させたりしていて。無理したり、世間の注目を惹きつけることをすごく分かってたんやなと思って。"そうなりたいとは思わないですけど、"そういう人と一緒に仕事をしたいって思います。

——将来的にはどうしたい？

渡辺くん：目先の目標として、自分が一緒に仕事させてもらう会社さんに、ちゃんと"矢印を向けたい"と思っています。お願いの仕方とか連絡のとり取り方一つとっても、こっちの都合だけじゃなくて相手のことを考えて、代理店やクライアント、協力会社のハブになりたいです。まるさんはエンドクライアントだけではなく、協力会社さんにもめちゃくちゃ矢印を向けているなんかの雰囲気しています。

——藤原くんはとりあえず横田をぶち抜くっていう目標でいい？

藤原くん：それでお願いします（笑）。横田さんはもうレベルが違うというか、人間性がそのままプログラマーみたいな人で……天敵ですよね。日々、隣でずっいなって思いながら見ています。

城戸緋古ん：私は協力会社さんだと普通に接することができるんですけど、クライアントって気ったらあかんみたいなイメージが強くて、どうしても顔色を伺ってしまうんです。すごく下から下からになっちゃうので、それをやめる訳じゃないですけど、クライアントさんに向ける目標では仕事を進めていけるようになりたいです。

楽しいお話が聞けたところですが、そろそろ皆さんお酒が回ってきたみたい……（笑）今回はこの辺りでお開きにしたいと思います。

「社会人だから」「大人だから」って耳にしますが、そうは言っても自分は自分。何歳になっても嬉しい時には喜んで、悲しい時には思いや涙を込んだらいいと思うのです。20代前半、人生まだまだこれからの皆さんは、たくさんの可能性を秘めていることと期待にはなる。おかず盛り盛りでください！

次回のゲストは、企画営業部の野口さんです！お楽しみに。